

市民がつくる環境都市こまき

こまき環境広報

編集：こまき環境市民会議

こどもとおとなの環境会議開催される

こまき環境市民会議主催 北里市民センター

こまき環境市民会議主催のこどもとおとなの環境会議が去る2月28日、北里市民センターで100人余の参加を得て開催されました。

会議は、会場持ち回りで3回目を数えますが、小牧市内の小中学校で取り組まれている学校版環境ISOの取り組みを中心にその成果を発表し、発表事例をもとに参加者が意見交換を行なうものです。今年は、小学校5校（三淵・小牧南・北里・小木・米野）と中学校3校（小牧西・北里・応時）から発表がありました。



ペットボトルキャップ回収運動を発表する三淵小学校

小学校の部では、ペットボトルキャップ50000個を集め、60人分のワクチンに替える取り組みを行なった三淵小学校、校庭のごみ拾い週間や落ち葉拾い競争、持ち物に名前書こうカードの発行に取り組んだ小牧南小学校、アルミ缶や牛乳パックの回収に積極的に取り組んだ北里小学校、市民活動団体の指導のもと、菜の花やケナフ栽培、マイバッグづくりに取り組んだ小木小学校、分別状態の悪いクラスにイエローカードを発行したり、エコ点検をスクールネットで知らせた米野小学校など、それぞれに創意と工夫のある取り組みが紹介されました。

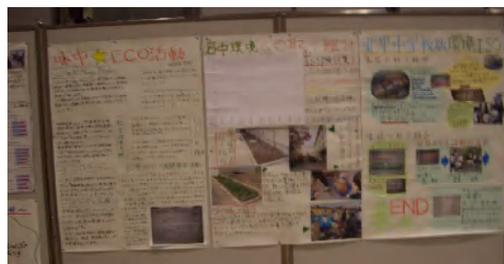


リサイクルの取り組みを発表する小牧西中学校

また中学校の部では、リサイクルや分別の習慣づけを行うために、点検表で管理したり、アルミ缶や牛乳パックの回収を週2回行なうなどした小牧西中学校、生徒、職員が宣言を行なって分別や節電に努めたり、小さくなったチョークを手作りチョークとして再生するなどした北里中学校、ISO取り組みを馴染みやすくするため、ISO（いその家）という愛称で浸透を図りつつ、節電や分別、さらにはエコキャップ運動を行なった応時中学校、などが紹介されました。

意見交換では、子どもたちから活発な質問や、自校でも採用したいなどの声が相次ぎ、熱気に満ちた手応えのある雰囲気の中、2時間半に及び会議を終了しました。

なお、発表校以外の学校については、会場にパネル展示され、紹介されました。



会場に展示された発表校以外のパネル

子どもたちに恥じない市民でありたい

今、小牧市では小中学校全校で子どもたちが「環境にやさしい子」を目ざして、学校版環境ISOに取り組んでいます。その子どもたちは、やがて環境にやさしい小牧市民になることでしょう。「環境都市宣言のまち小牧」として大いに期待したいところです。

私たちは環境都市にふさわしい行いをしているでしょうか

ポイ捨てされたゴミがいつまでも散らばっていませんか。

捨てる人は市民とは限りません。まちへ訪れる人、通り過ぎる人、まちへ来て働く人など様々な人がまちを汚します。誰かが捨てたゴミでも、おうちまわりにいつまでも散らばっていることは恥ずかしいことです。誰かがではなく、まず私が拾いましょう。



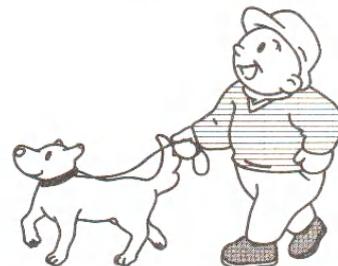
集積場は乱れていませんか

ときどきですが、ひどく乱れた集積場を見かけます。乱れてはいないが、収集されないゴミが残っている集積場も見かけます。ルールを守らない結果でしょう。守らないのは子どもではなく、明らかに大人です。その集積場を利用する人たちによる掃除当番体制の仕組みをつくって見事に乱れを収めた事例がいくつもあります。(監視当番ではなく掃除当番でよいのです)



犬のフンが放置されていませんか

通学路に犬のフン。最も悪いケースです。子どもたちに恥じ入る行為ですが、マナー以前のモラルの問題です。飼い主に対する何らかの啓蒙が必要ですが、そのまちでつくったチラシや看板が飼い主には身近かなものとして意外に有効な事例もあります。



家計を助けることが温暖化防止に貢献することです

水を節約とか、電気を消そうと思っても、つい忘れてしまう。近いところへもついつい車で。なかなか行動は改まりません。なぜなら、習慣は容易には変えられないからです。子どものいる



家庭では、まずは子どもと相談。「我が家の環境ルールをつくってエコな暮らしを当たり前にしませう。子どもたちは学校版環境ISOを学んでいるのです。早速おうちで実行。子どもがおまわりさんになって、親のルール違反を反則点数にするなどして取り締まるのもいかがでしょうか。それでもダメならば、思い切って省電力型、節水型、

低燃費型の製品に替えてしまうのも。こまき環境市民会議もエコライフを応援します。